

令和4年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	(株) クレアメディコ	代表者	岡本 恒夫	法人・事業所の特徴	「医療・介護の原点はやさしさ」 上質な医療・介護を提供し、信頼され、選ばれる「さわやか苑」を目指し、地域医療・介護に貢献します。
事業所名	多機能ケアセンター さわやか苑長岡藤沢	管理者	小林 貴道		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	1人	1人	1人	1人	3人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 個別担当職員にて毎月、全ご利用者様の対応表を更新、共有し、統一した対応を徹底していく。 毎月1回カンファレンスの実施を徹底する、話し合った内容を全職員で共有し、取り組み結果を翌月のカンファレンスにて評価する。 カンファレンスの内容等を運営推進会議にて報告し、ご利用者様への取り組みを知っていただく。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別担当職員を中心にご利用者様々に合った対応、支援をより継続性を持って行い、ご利用者様の状態改善につなげていく必要あり。 ご利用者様の事例を通して書面にて取り組みをお伝えすることができた。今後はご家族様へも取り組みを毎月発信していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議の照会書とともにサービス評価総括表の「今回の改善計画」を書面で報告していただくことで、日々の取り組みや成果、課題などを知ることができて良かった。 いつ、誰が、どのように行うかの他に回数や頻度などの数値目標も記載されているため、達成状況の評価がしやすくなったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別担当職員にて毎月、全ご利用者様の対応表を更新、共有し、統一した対応を徹底していく。 毎月1回カンファレンスの実施を徹底する、話し合った内容を全職員で共有し、取り組み結果を翌月のカンファレンスにて評価する。 個別担当職員にて毎月作成しているQOL向上プログラムモニタリングシートをご家族へ配布し、苑での取り組みを知っていただく。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）担当職員を中心にチェック項目を更新しながら、清潔等を保っていく。 季節を感じて頂ける飾りつけ、作品作りをレクリエーションの一環としてご利用者様に作っていただき、飾る事で達成感、喜び等を感じて頂く。写真に撮り、運営推進会議にて見ていただく。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当職員中心に全職員が関わり、清潔等を維持している。 季節を感じていただくレクは継続して行っている。調理レクにも季節を取り入れたり、節分など節目の行事を行い、楽しんでいただくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 玄関のドアホンで呼び出すと、すぐに職員がでて来られ対応して下さる。日中は施錠されておらず不快な音や臭いは感じられない。 コロナ禍で事業所に足を運ぶ機会は少なくなったが、しつらえや環境に気になる部分はない。整理整頓されている。季節を感じられる飾りつけもされている。 作品の写真を運営推進会議の資料に添付いただけると、より分かりやすくなるかと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当職員が職員一人一人の整理整頓、清掃場所を割り振り、毎月10日毎に整理整頓、清掃を行いチェックしていく。担当職員は実施できているか確認していく。 季節を感じて頂ける飾りつけ、作品作りをレクリエーションの一環としてご利用者様に作っていただき、飾る事で達成感、喜び等を感じて頂く。写真に撮り、運営推進会議にて見ていただく。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 広報誌の作成、発信を継続していく。 地域行事には可能な範囲で参加していく。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍にて、藤沢市内の公園草取り、側溝掃除の参加のみとなった。 広報誌の継続性がなく、発信できなかった。 コロナ禍でも、ご利用者様が地域貢献やつながりを感じて頂ける取り組みが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でも町内の行事（草取りや側溝掃除）に参加しており、地域とのつながりが持っていることが感じられた。 広報誌の発行ができなかったとのことですが、施設の情報を発信する取り組みや雑巾プロジェクトなどは、引き続き継続して頂きたいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 雑巾プロジェクト（雑巾を手縫いし、近隣の保育園、小中学校に寄付するもの）を多くのご利用者様に参加いただき、地域貢献、地域との関りを感じていただく。 地域行事には可能な範囲で参加していく。 苑全体ではなく、小規模多機能としての広報誌を定期的に発信していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> 毎月のカンファレンスでは、その方の地域資源とは何か、議題の一つとして取り上げ、話し合い、ケアに繋げる。 個別担当職員は、その方の生活歴、地域資源を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ご自宅、苑でのことに終始し、地域資源まで話し合うことができなかった。 生活歴をケアに活かすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の中で地域資源の把握ができていない、知るという気持ち薄いとの意見があったが、それを知る目的を明確にする必要があると思う。 コロナが収束したら、利用者を地域の行事やイベントに参加してもらってほしいです。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源とは何かをまず研修する。 カンファレンスでは議題の一つとして取り上げ、個別担当職員は、その方の生活歴、地域資源を把握する。

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にて書面開催継続が見込まれるため、会議の前に事業所から委員に聞きたいことや質問を資料に載せ、回答いただき今後に活かしていく。 ・運営推進会議では毎回、サービス評価項目 A～F についての進捗状況を報告し、意見をいただき改善していく。 ・写真や動画等も活用してお伝えしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所からの質問等は少ないが行い、助言をいただき、実行できた。 ・書面にて進捗状況をお伝え出来たが、提出の遅れや不備があった。コロナ対策継続が見込まれるため、写真や動画を今後は活用していく必要あり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書面開催だったが、ひとつひとつの意見や質問にきちんと答えて下さり、疑問が解消できた。運営推進会議の書面開催だけでなく、話し合いの場を模索するという計画であったが、コロナ禍にてやむを得ないと思う。 ・コロナ禍のため、やむを得ませんが、提出した資料についての受け止めが、すぐに見えてこないのが残念です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議では毎回、サービス評価項目 A～F についての進捗状況を報告し、意見をいただき改善していく。期日を厳守した回答を行っていく。 ・写真や動画等も活用してお伝えしていく。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練担当メンバーにて毎月会議を行う。訓練の為の訓練ではなく、実際に起きた場合に全職員が自分の役割を認識し、すぐ動けるようなマニュアル（火災、水害等）を作成し、理解を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所から避難訓練担当メンバーを選定し、事前の会議を行い、訓練を実施できた。 ・職員全員に理解を深められなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練は繰り返し行うことが大切だと思う。避難のために必要な技術（車椅子での階段昇降、レスキューマットの使用方法など）の研修も状況に応じて行う必要があると思う。 ・今年度は運営推進会議の書面資料で、訓練の開催報告を拝見しましたが、概要だけでなく、訓練目標や訓練後の課題、参加者の様子などの記載があると、委員も状況が分かりやすいかと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練担当メンバーにて定期的に会議を行い、避難訓練を実施する。訓練の為の訓練ではなく、実際に起きた場合に全職員が自分の役割を認識し、すぐ動けるようなマニュアル（火災、水害等）を作成、修正し、理解を深めていく。 ・訓練実施の際は当日参加職員だけでなく、初動等の動きを職員全員で確認する。